

7 文科教第 7 9 9 号  
令和 7 年 8 月 8 日

各 都 道 府 県 教 育 委 員 会  
各 指 定 都 市 教 育 委 員 会  
各 都 道 府 県 知 事  
構造改革特別区域法第 12 条第 1 項の  
認定を受けた各地方公共団体の長  
附属学校を置く各国公立大学法人学長  
殿

文部科学省総合教育政策局長

塩 見 み づ 枝

令和 7 年度全国学力・学習状況調査の結果公表②及び調査結果の活用や取扱いについて（通知）

令和 7 年度全国学力・学習状況調査（以下「令和 7 年度調査」という。）の結果については、「令和 7 年度全国学力・学習状況調査に関する実施要領」（令和 6 年 12 月 23 日付け 6 文科教第 1467 号文部科学事務次官通知別紙。以下「令和 7 年度調査実施要領」という。）において、文部科学省から公表することとなっています。また、令和 7 年度以降の調査結果については、「全国学力・学習状況調査の調査結果の取扱いの改善等について」（令和 7 年 6 月 6 日付け 7 文科教第 507 号文部科学省総合教育政策局長通知。）に従って、国による結果公表は 3 段階に分けて行うこととしております。

2 段階目の結果公表（以下「結果公表②」という。）として、全国データに基づく分析結果を、7 月 31 日に下記のとおり公表しましたので、お知らせします。

調査結果について、各教育委員会、学校法人、国立大学法人、公立大学法人、学校設置会社及び学校（以下「各教育委員会・学校等」という。）において十分に活用し、教育施策の成果と課題の検証・改善や学校における学習指導の改善等に役立てていただくことが重要です。調査結果の活用や取扱いに関する留意事項等は下記のとおりですので、各教育委員会・学校等におかれては、下記に御留意の上、適切な対応をお願いします。

都道府県教育委員会におかれては域内の市町村教育委員会（指定都市教育委員会を除く。）及び関係する所管の学校に対して、指定都市教育委員会におかれては関係する所管の学校に対して、国立大学法人学長及び公立大学法人学長におかれては関係する附属学校に対して、本通知の内容について指導、助言及び周知をお願いします。都道府県知事におかれては関係する域内の私立学校及びそれを設置する学校法人に対して、構造改革特別区

域法（平成 14 年法律第 189 号）第 12 条第 1 項の認定を受けた地方公共団体の長におかれては関係する域内の株式会社立学校及びそれを設置する学校設置会社に対して、本通知の内容について十分周知をお願いします。

今回の調査結果の分析・検証の結果やそれらを通じて得られた具体的な課題などについては、小・中学校のみならず、高等学校の関係者等にも共有いただくよう配慮をお願いします。また、各教育委員会において所管の学校に対して周知する際には、例えば、各学校において進める必要がある取組を整理して、教育委員会主催の研修等で周知するなど、効果的な周知に取り組んでいただくようお願いします。

## 記

### 1. 令和 7 年度調査の結果公表について

#### (1) 公表内容について

令和 7 年度調査の結果に関する以下の資料を、国立教育政策研究所のホームページ（<https://www.nier.go.jp/kaiatsu/zenkokugakuryoku.html>）に公開していること。

- ・結果（概要）
- ・結果（概要）のポイント（本通知の別添 1）
- ・報告書（小学校国語、小学校算数、中学校国語、中学校数学、小学校理科、中学校理科、質問調査）

URL：<https://www.nier.go.jp/25chousakekkahoukoku/>

- ・その他調査結果資料

#### (2) 調査結果の概要（別添 1）

##### ①教科調査の結果

国語では、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることや、自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことなどに課題が見られたこと。

算数・数学では、数直線上の分数を捉えることや、百分率を倍を使って捉え直し表現すること、あらかじめ書かれている図形の証明を評価・改善することなどに課題が見られたこと。

理科では、電気が通る回路を実際の生活の中でつくることや化学変化を原子や分子のモデルで表すことなどに課題が見られたこと。

##### ②質問調査の結果

学校及び児童生徒に対する質問調査の結果から、

- ・「主体的・対話的で深い学び」に取り組んだと考える児童生徒や、ICT 機器を活用することができると考えている児童生徒ほど、各教科の正答率・スコアが高い傾向が見られること
- ・全ての教科において、授業の内容がよく分かると回答した児童生徒の割合が減少し、

学校の授業時間以外の勉強時間が減少傾向にあることなどが明らかになったこと。

### ③文部科学省の主な取組

調査結果を踏まえて文部科学省で実施する主な取組は、別添1のp.7のとおりであること。

## 2. 令和7年度調査結果の活用及び取扱いについて

### (1) 調査結果の活用

各教育委員会・学校等においては、令和7年度調査実施要領7.（4）に基づき、調査結果を十分活用して、児童生徒の学力や学習状況を把握・分析することによって、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立すること。また、学校における学習指導の充実や学習状況の改善に役立てることが重要であること。

なお、調査結果の分析に当たっては、教科調査の平均正答数、平均正答率、平均IRTスコアのみならず、個々の問題や領域等に注目して学習指導上の課題を把握・分析したり、学習指導要領の趣旨を踏まえた取組、ICT機器の活用、教科に関する意識や学習活動等に係る質問調査の結果と合わせて総合的に分析、評価したりすることを通じて、児童生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることも重要であること。

また、文部科学省としては、別添1のp.7に示す取組一覧の中でも、別添2に示す調査結果の活用に関する取組（報告書の作成、8月20日（水）・21日（木）にオンライン開催する全国説明会など）を行っており、各教育委員会、学校等において積極的に活用いただきたいこと。

### (2) 調査結果の取扱いに関する留意事項

調査結果の取扱いについては、令和7年度調査実施要領7.と「令和7年度全国学力・学習状況調査における結果の提供及び公表日等について」（令和7年6月24日付け事務連絡）に基づき、適切に行うこと。

特に、調査結果の公表に関しては、教育委員会や学校が、保護者や地域住民に対して説明責任を果たすことが重要である一方、調査により測定できるのは学力の特定の一部であること、学校における教育活動の一側面であることなどを踏まえ、序列化や過度な競争が生じないようにするなど教育上の効果や影響等に十分配慮すること。

## 3. 調査結果を踏まえた教育委員会における取組の推進について

各教育委員会においては、調査結果の分析・検証の結果を踏まえ、それぞれの役割と責任に応じて、改善計画等の作成を行うことなどにより、域内の教育や教育施策の改善に向けて総合的かつ計画的な取組を進めること。

具体的には、次の事項について取り組むことが考えられること。

- ①調査結果において課題の見られた点を中心に、各学校における教職員の指導力の向上、指導内容や指導方法等の改善を図るための研修等を適切に実施すること。その際、今回、IRT に基づいて示した中学校理科の結果に関する資料（IRT バンドの分布、GP 分析図（Good-Poor Analysis）等）を含め、別添2に示した各種資料等も積極的に活用すること。また、調査結果の分析・検証の結果については、教育委員会全体で共有し、小・中・高等学校全体を通じて資質・能力を育成するため、調査実施学年以外の学年や調査実施教科以外の教科等の指導改善等にも活用すること。
- ②学校における具体的な改善の計画や取組に対し、学校の状況に応じて、必要な指導、助言や支援等を行うとともに、首長部局等と連携を図り、児童生徒の学習環境の充実・支援に取り組むこと。その際、特に課題が見られる学校における改善の取組を促すとともに、積極的に支援すること。
- ③個に応じた指導をはじめ、指導内容や指導方法等の改善を推進するため、指導資料や教材の作成、教職員研修の実施や授業研究等への支援、教職員や非常勤講師の配置等への配慮など、教育施策の改善に適切に反映させること。
- ④優れた取組を行っている学校等の事例や調査結果の分析・検証手法等の周知に努めるなど、域内における学習指導や家庭における学習習慣・生活習慣等の改善に向けた取組を推進すること。

#### 4. 調査結果を踏まえた学校における取組の推進について

##### (1) 学習指導等の改善に向けた取組の推進

各学校においては、児童生徒1人1人の結果の振り返りを進めるとともに、別添2に示した各種資料等も積極的に活用しながら、調査結果を分析・検証し、指導計画等に適切に反映させるなど学習指導等の改善に向けて計画的に取り組むこと。また、その際には、調査実施学年以外の学年や調査実施教科以外の教科等を対象として、学校の教育活動全体を見渡した幅広い観点から取り組むべき課題や、その改善に向けた取組について検討すること。

具体的には、次の事項について取り組むことが考えられること。

##### ①学習指導要領の着実な実施

引き続き「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善や「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実、カリキュラム・マネジメントの充実を図ること。その際、各教科等の特質に応じて、具体的な学習内容、単元や題材などの構成、学習の場面等に応じた指導方法について研究を重ね、適切な指導方法を選択しながら、工夫して実践すること。また、児童生徒の各教科への興味・関心、理解度を高める指導改善となるよう留意すること。さらに、基礎的・基本的な知識及び技能の習得に課題が見られる場合には、それを身に付けさせるために、児童生徒の学びを深めたり主体性を引き出したりといった工夫を重ねながら、確実な習得を図

ることが求められること。

### ②ICT 機器を活用した学習活動の充実

ICT 機器を活用した学習を質・量ともに充実させていくため、調査結果を踏まえ、各学校における課題を改めて把握・分析し、学習指導等の改善に計画的に取り組むこと。

その際、1人1台端末を活用した効果的な実践例を創出・モデル化し、その実践内容を公開している、リーディング DX スクール事業のホームページ等も参照すること。

- ・「リーディング DX スクール」のホームページ

URL:<https://leadingdxschool.mext.go.jp/>

### ③児童生徒の豊かな心をはぐくむ取組の推進

道徳教育や特別活動、体験活動、読書活動、生徒指導など学校教育全体を通じて児童生徒の豊かな心をはぐくむ取組に努めるとともに、保護者や地域等の理解と協力の下に十分に連携をとりながら、児童生徒の心のケアや基本的な学習習慣や生活習慣等の改善に向けた取組等の推進に引き続き努めること。

- ・令和5年度追加分析報告書「令和5年度全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙調査（うち、挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感、幸福感等）の結果を活用した専門的な分析」のホームページ

URL:[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/gakuryoku-chousa/1416304\\_00010.html](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/gakuryoku-chousa/1416304_00010.html)

- ・令和6年度追加分析報告書「特別の教科 道徳等の学校の取組と児童生徒の自己有用感等の関係に関する調査研究」のホームページ

URL:[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/gakuryoku-chousa/1416304\\_00011.html](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/gakuryoku-chousa/1416304_00011.html)

### ④家庭学習の充実

家庭との連携を図りながら、発達の段階に応じた学習計画の立て方や学び方を促したりするなど家庭学習も視野に入れた指導を行うとともに、これを踏まえた予習・復習など家庭での学習課題を適切に課すこと。

## (2) 校内研修等の充実

調査結果において課題の見られた点を中心に、教職員の指導力の向上、指導内容や指導方法等の改善を図るため、校内研修等を適切に実施すること。その際、別添2に示した各種資料等も積極的に活用すること。また、調査結果の分析・検証の結果やそれらを通じて得られた具体的な課題などについては、学校全体で共有するとともに、小・中・高等学校全体を通じて資質・能力を育成するため、近隣等の小学校や中学校や高等学校とも共有するなどして、調査実施学年以外の学年や調査実施教科以外の教科等の指導改善等にも活用すること。

別添1 令和7年度全国学力・学習状況調査の結果（概要）のポイント

URL：<https://www.nier.go.jp/25chousakekkahoukoku/index.html>

別添2 文部科学省における全国学力・学習状況調査結果の活用に関する令和7年度の取組

参考資料 令和7年度全国学力・学習状況調査に関する実施要領（抜粋）

（参考） 「全国的な学力調査（全国学力・学習状況調査）」のホームページ  
（文部科学省ウェブサイト）

URL：[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/gakuryoku-chousa/index.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/gakuryoku-chousa/index.htm)

（参考） 「中学校理科」IRTを用いた結果返却に関する動画・リーフレット  
（文部科学省ウェブサイト）

URL：[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/gakuryoku-chousa/zenkoku/mext\\_03311.html](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/gakuryoku-chousa/zenkoku/mext_03311.html)

**【本件担当】**

文部科学省総合教育政策局

参事官（調査企画担当）付学力調査室

E-mail：[gakucho@mext.go.jp](mailto:gakucho@mext.go.jp)

電話 03-6734-4111（代表）内線 3726

# 令和7年度全国学力・学習状況調査の結果（概要）のポイント

令和7年7月  
文部科学省・国立教育政策研究所



## 1 令和7年度全国学力・学習状況調査の概要

### 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、

全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る

学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる



そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する



### 調査概要

調査実施日	令和7年4月14日(月)～17日(木)
調査対象	①児童生徒：小学校6年生、中学校3年生 ②学 校：小学校等（約19,000校）、中学校等（約10,000校）
調査事項	①児童生徒：教科調査〔国語、算数・数学、理科〕 / 質問調査 ②学 校：質問調査
調査問題	・学習指導要領で育成を目指す、知識及び技能や思考力、判断力、表現力等を問う問題を出題。 ・「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善のメッセージを発信。
今年度の調査の特徴	・CBT調査の導入（中学校理科） ・多様な生徒の状況把握 ・生徒質問でのランダム方式の試行 ・結果公表の内容、スケジュールの改善

全国（国公私）の  
平均正答数（率）・  
平均IRTスコア

小学校						中学校					
国語		算数		理科		国語		数学		理科	
9.4/14 問 (67.0%)		9.3/16 問 (58.2%)		9.7/17 問 (57.3%)		7.6/14 問 (54.6%)		7.3/15 問 (48.8%)		505	
男子	女子	男子	女子								
63.1%	70.9%	59.0%	57.3%	55.8%	58.8%	52.0%	57.4%	49.1%	48.6%	503	508

➤ 教科に関する調査結果のポイントは p.2・3・4

# 2 教科に関する調査結果（国語）



※ □内の数字は相関係数

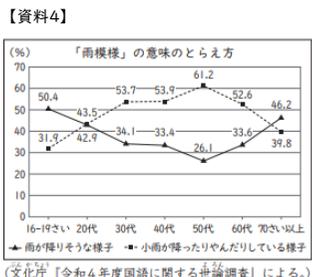
- 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることに引き続き課題が見られた。
- 自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことに課題が見られた。  
→文章を読む目的を明確にして必要な情報を捉えること、伝えたいことの根拠を明確にして書くことを意識させることが重要。

## 小学校国語 大問3三(2)

目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる問題

「あなたらしい形」は「新しい」という意味で、私たちは「新しい」と言います。でも、大昔の奈良時代には「あたらし」と言っていました。今でも、「新しく」という意味で「あたらし」と言っています。「あたらし」は、大昔から使われていました。ところが、次の平安時代には「あたらし」が「あたらし」になりました。「あたらし」の順番が入れかわって、「あたらし」となり、「あたらし」に比べれば「あたらし」は新しい形です。それが変化して、今では「あたらし」になりました。

【資料1】  
「あなたらしい形」は「新しい」という意味で、私たちは「新しい」と言います。でも、大昔の奈良時代には「あたらし」と言っていました。今でも、「新しく」という意味で「あたらし」と言っています。「あたらし」は、大昔から使われていました。ところが、次の平安時代には「あたらし」が「あたらし」になりました。「あたらし」の順番が入れかわって、「あたらし」となり、「あたらし」に比べれば「あたらし」は新しい形です。それが変化して、今では「あたらし」になりました。



（注）紙面の関係で資料1～4は一部分のみ掲載している。

正答例 （正答率 56.5%）	言葉は年月とともに変化するという事になったとくしました。なぜなら、「新しい」という言葉が、奈良時代には「あたらし」と言われていたように、時代とともに言葉の形が変わることがあるからです。
誤答例	言葉の広がりや深さにも、ふれていただきたいということになっくとくしました。これからも言葉を大切にしたいと思います。

💡 納得したことは書けたが、納得した理由を複数の資料から取り上げて書けず、条件②を満たせなかった児童がいた（\_\_\_線部分）。

## 中学校国語 大問1四

自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことができるかどうかをみる問題

- 【ちらし】に小学生の感想をもとに今年的美術展で工夫したことを書き加える。
- 条件1：今年的美術展の【工夫】と、【工夫】と結び付く小学生の【感想の一部】を選択する。
- 条件2：1で選んだ【工夫】と【感想の一部】との関係が分かるように、接続する語句や指示する語句を用いて書く。

【ちらし】（更新版②）

**第一中学校 美術展**

毎年、秋に行っている第一中学校の美術展のお知らせです。私たちが美術の時間につくった作品を展示します。どれもかいしんの由来です。今年も、中学生による作品の説明や小学生向けの体験コーナーもあります。

第一小学校6年生のみなさんへ

（注）紙面の関係で資料は一部分のみ掲載している。

【工夫】

A 作品に込めた思いや作品をつくる過程について、中学生が、来場者の求めに応じて説明する。

【感想の一部】

A どうやってあんなすばらしい作品をつくったのかわりたくまりました。美術でどんなことを学べるのが楽しみです。

イ いろいろな作品が展示されていて楽しかったです。思いのこもった作品が多いように感じました。

正答例 （正答率 31.2%）	昨年の来場者から、 <u>どうやって作品を作ったのか知りたくなった</u> という感想をもらいました。そこで、 <u>今年は中学生が作品について説明します</u> 。気になる作品があったら、ぜひ中学生に質問してください。
誤答例	今年的美術展では、 <u>中学生が作品について説明します</u> 。昨年参加した小学生の感想に、 <u>いろいろな作品が展示されていて楽しかった</u> という声がありました。

💡 伝えたい事柄とその根拠を適切に結び付けながら、自分の考えが伝わる文章になるように書くことなどに課題がある生徒がいた。

# 2 教科に関する調査結果（算数・数学）



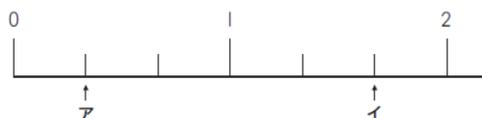
※ □内の数字は相関係数

- 数直線上の分数を捉えることや、百分率を倍を使って捉え直し表現することに課題が見られた。
- あらかじめ書かれている図形の証明を評価・改善することに課題が見られた。

→ **基準となる数を見だし数量の関係を捉えさせることや、数学的な用語や表現について知識の習得と習得した知識を活用する活動を行き来しながら理解を深めていくことが重要。**

## 小学校算数 大問3(3)

数直線上で、1の目盛りに着目し、分数を単位分数の幾つ分として捉えることができるかどうかをみる問題



数直線上に示された数を分数で書く。

数直線上に示された1より大きい数を、1より大きい分数として捉えて表すことができていない児童がいた。

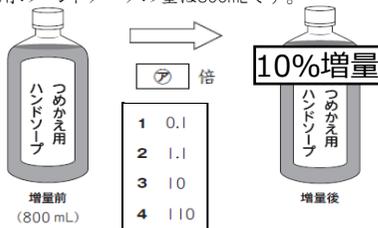
<b>正答</b>	ア： $\frac{1}{3}$ イ： $\frac{5}{3}$ 又は $1\frac{2}{3}$
正答率 35.4%	
<b>誤答例</b>	イを $\frac{5}{6}$ 又は $\frac{2}{3}$ と解答

※分母の異なる分数の足し算 ( $\frac{1}{2} + \frac{1}{3}$ ) はできている (正答率81.5%)

## 小学校算数 大問4(4)

「10%増量」の意味を解釈し、「増加後の量」が「増加前の量」の何倍になっているかを表すことができるかどうかをみる問題

広告には、つめかえ用のハンドソープが「10%増量」と書かれています。増量前のつめかえ用のハンドソープの量は800mLです。



10%増量のつめかえ用のハンドソープの内容量が、増量前の何倍かを選択する。

<b>正答</b>	1.1倍
正答率 41.3%	
<b>誤答例</b>	0.1倍 10倍

増量後のハンドソープの量は、増量前のハンドソープの量の何倍ですか。(選択肢式)

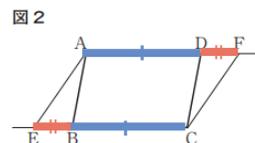
「10%増量」とは、増加前の量の1.1倍になっていることだと解釈できていない児童がいた。

## 中学校数学 大問9(2)

統合的・発展的に考え、条件を変えた場合について、証明を評価・改善することができるかどうかをみる問題

(2) 次の図2のように、平行四辺形ABCDの辺CB、ADを延長した直線上に、BE = DFとなる点E、Fをそれぞれとつても、四角形AECFは平行四辺形になります。このことは、前ページの証明1の一部を書き直すことで証明できます。書き直すことが必要な部分を、下のアからオまでの中から1つ選び、正しく書き直さない。

四角形AECFは平行四辺形となることの証明のうち、変更が必要な部分を選択し、書き直す。



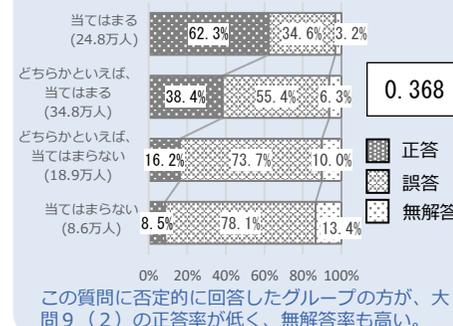
既に書かれている証明が適切かどうかを評価できない生徒がいた。

クロス分析

生徒質問調査 [59] 「文字式を用いた説明や図形の証明を読んで、書かれていることを理解することができますか」の各選択肢を選んだ生徒の本設問における解答状況(%)

ア	平行四辺形の向かい合う辺は平行だから、AD // BC によって、AF // EC ……①	62.3%
イ	平行四辺形の向かい合う辺は等しいから、AD = BC ……②	34.6%
ウ	仮定より、DF = BE ……③	3.2%
エ	②、③より、AD - DF = BC - BE ……④	38.4%
オ	④より、AF = EC ……⑤	55.4%

①、⑤より、1組の向かい合う辺が平行でその長さが等しいから、四角形AECFは平行四辺形である。



<b>正答例</b>	誤っている部分 : ⑤
正答率 37.0%	(誤) $AD - DF = BC - BE$ (正) $AD + DF = BC + BE$
<b>誤答例</b>	・ ⑤を選択したが、書き直しについては無解答 ・ 誤っている部分としてア・イ・ウを選択

## 2 教科に関する調査結果（理科）



※ □内の数字は相関係数

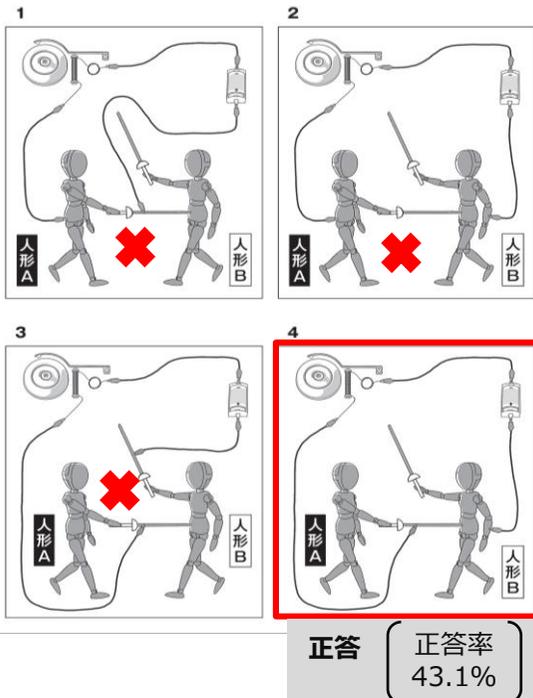
R7

- 電気が通る回路を実際の生活の中でつくることに関する理解に課題が見られた。
  - 化学変化を原子や分子のモデルで表すことに課題が見られた。
- 問題解決や科学的な探究のプロセスを通して、学習を通して身に付けた知識を活用することができるような指導の充実が重要。

### 小学校理科 大問2(2)

電気の回路のつくり方について、実験の方法を発想し、表現することができるかどうかをみる問題

電気を通す物（グレー）と通さない物（白）でできたフェンシングの人形について、人形Aの剣を人形Bに当てたときだけ、ベルが鳴る回路を選ぶ。



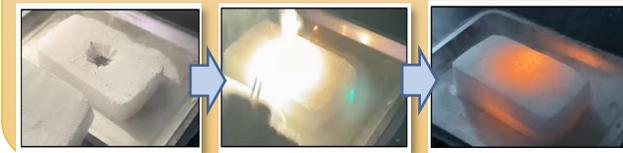
💡 電気が通る回路のつくり方に関して理解し、表現できていない児童がいた。

### 中学校理科 大問5(2)

化学変化に関する知識及び技能を活用して、実験の結果を分析して解釈し、化学変化を原子や分子のモデルで表すことができるかどうかをみる問題



ドライアイスを使用して二酸化炭素中でマグネシウムを燃焼させる実験動画

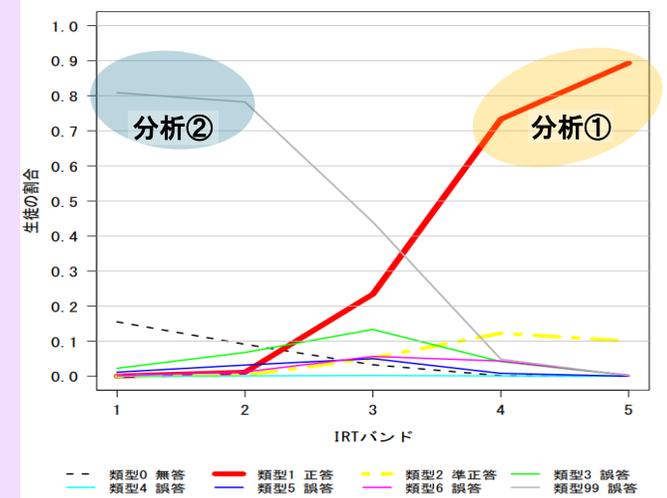


二酸化炭素の中でマグネシウムが燃焼する際の化学反応について、原子や分子のモデルで表す

正答例 正答率 35.8%	
誤答例	

💡 化学変化で生じている反応について十分に理解していない生徒がいた。

### G-P分析図(Good-Poor Analysis)



分析①：IRTバンド4、5に属する7割強の生徒は、正答

分析②：IRTバンド1、2に属する8割以上の生徒、IRTバンド3に属する約4割の生徒が、解答類型99（反応する物質と生成してできた物質が何かを整理できていない）

↓

IRTバンド3以下に属する生徒には、まずは「何が反応して、何が生成したのか」を整理できるような指導の改善が必要である。

# 3 質問調査結果（児童生徒、学校）①

※掲載している割合を示すグラフはその他、無回答を除いているため、合計しても100%に満たない場合がある。

R7

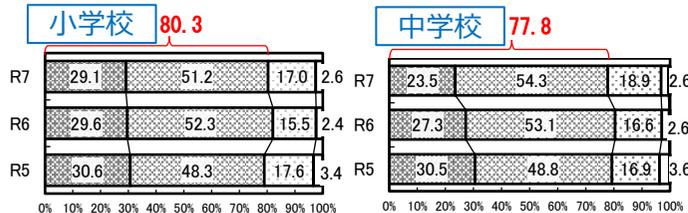
※ □内の数字は相関係数

## 学習指導要領の趣旨を踏まえた取組

- ◆ 昨年度までと同様、約80%の児童生徒が「主体的・対話的で深い学び」に取り組んだと考えている。

### 課題の解決に向けて自分から取り組んだ

■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる  
 □ どちらかといえば、当てはまらない □ 当てはまらない



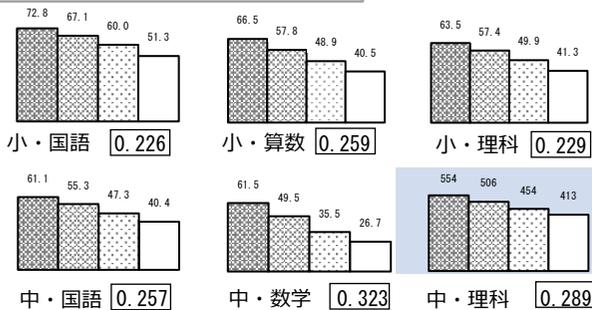
- ◆ 「主体的・対話的で深い学び」に取り組んだと考える児童生徒ほど、各教科の正答率・スコアが高い傾向。

### 児童生徒質問「課題の解決に向けて自分から取り組んだ」の選択肢ごとの教科の正答率・スコア

#### 課題の解決に向けて自分から取り組んだ

■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる  
 □ どちらかといえば、当てはまらない □ 当てはまらない

#### 選択肢ごとの教科の平均正答率・スコア



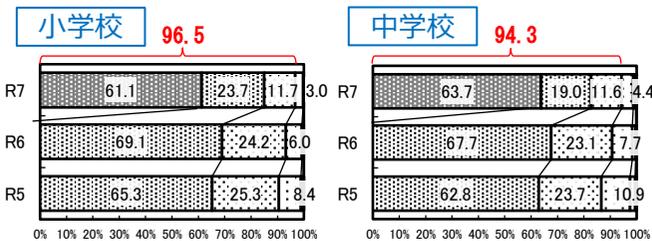
※「課題の解決に向けて自分から取り組んだ」以外の「主体的・対話的で深い学び」に関する回答でも同様の傾向。

## ICT機器の活用

- ◆ ICT機器を「ほぼ毎日」「週3回以上」活用する学校は、小学校97%、中学校94%。

### 【学校】タブレットなどのICT機器を使用した頻度

■ ほぼ毎日（1日に複数の授業で活用） ■ ほぼ毎日（1日に1回くらいの授業）  
 □ 週3回以上 □ 週1回以上 □ 月1回以上 □ 月1回未満



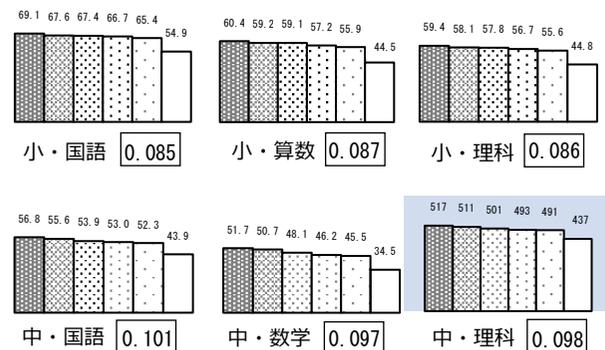
- ◆ ICT機器を使用する頻度と各教科の正答率・スコアとの間に、一定の関係が見られる。

### 児童生徒質問「PC・タブレットなどのICT機器を使用した頻度」の選択肢ごとの教科の正答率・スコア

#### 【児童生徒】タブレットなどのICT機器を使用した頻度

■ ほぼ毎日（1日に複数の授業で活用） ■ ほぼ毎日（1日に1回くらいの授業）  
 □ 週3回以上 □ 週1回以上 □ 月1回以上 □ 月1回未満

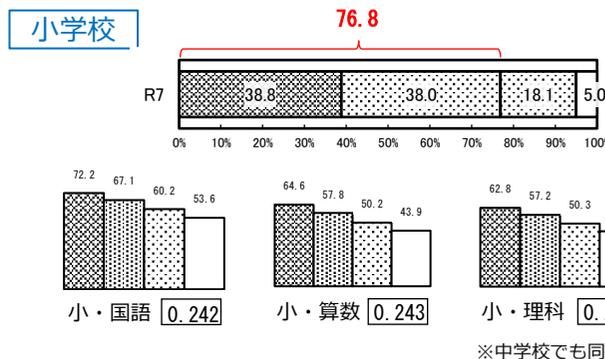
#### 選択肢ごとの教科の平均正答率・スコア



- ◆ ICT機器を活用する自信がある児童生徒ほど、各教科の正答率・スコアが高い傾向。

### 学校のプレゼンテーション（発表のスライド）を作成できる

■ とてもそう思う ■ そう思う  
 □ あまりそう思わない □ そう思わない

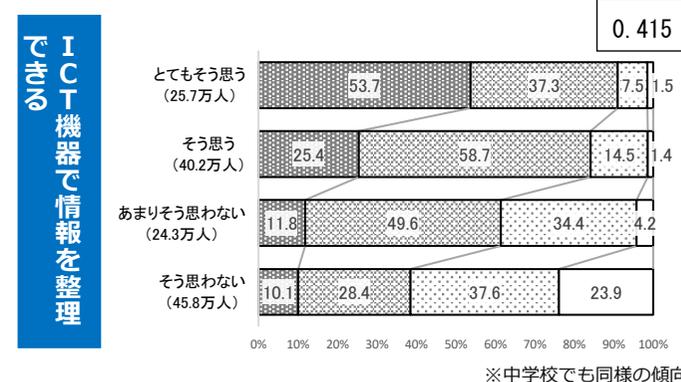


※中学校でも同様の傾向。

- ◆ ICT機器を活用する自信がある児童生徒ほど、探究的な学びに取り組んだと回答している。

### 小学校 学んだことを生かしながら考えをまとめていた

■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる  
 □ どちらかといえば、当てはまらない □ 当てはまらない

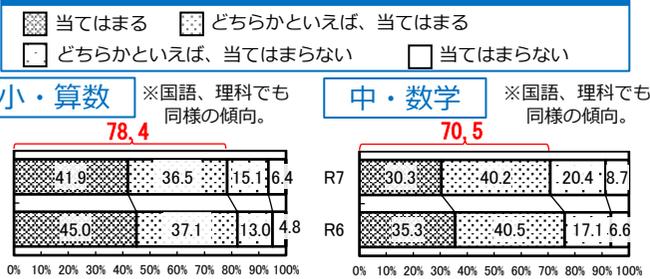


※中学校でも同様の傾向。

## 各教科への興味・関心、理解度

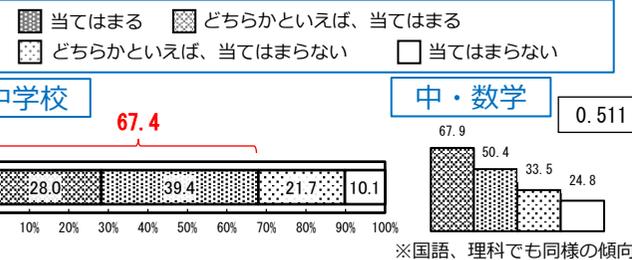
- ◆ 「授業の内容がよく分かる」児童生徒ほど各教科の正答率・スコアが高い傾向が見られるが、「当てはまる」と回答した児童生徒の割合が全教科で前回調査から減少。

### 授業の内容がよく分かる



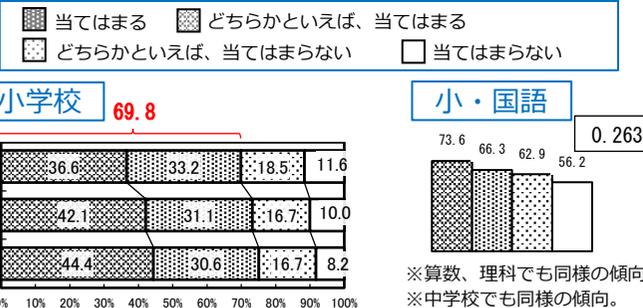
- ◆ 文字式を用いた説明や図形の証明を読んで、書かれていることを理解できる生徒は67%。

### 文字式を用いた説明や図形の証明を読んで、書かれていることを理解することができる（新規）



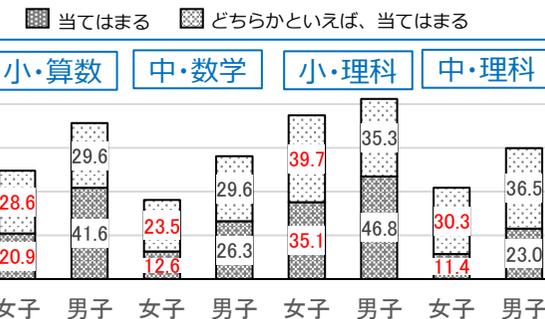
- ◆ 読書が好きな児童生徒の割合が減少傾向。

### 読書は好きですか



- ◆ 算数・数学、理科の平均正答率・スコアの大きな男女差は見られない一方、「得意」と考える割合は、女子の方が男子より低い。

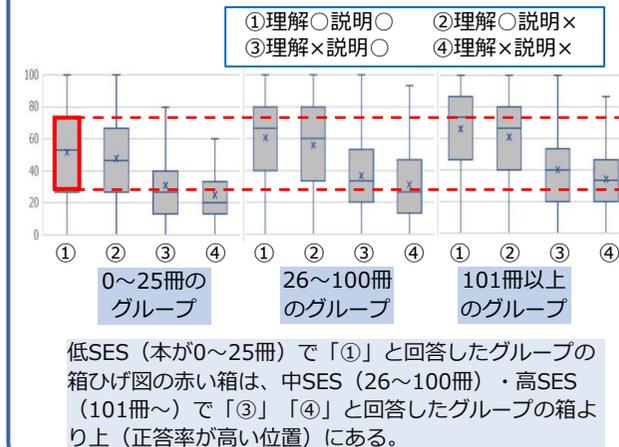
### 各教科が得意だ（新規）



- ◆ 算数・数学、理科の上位層で「得意ではない」者は、「授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できていない」と回答した割合が大きい。

- ◆ 低いSES（社会経済的背景）でも「文字式や証明を読んで理解する」「説明活動をする」の両方に取り組んだ児童生徒は、高いSESで取り組めていない者よりも**数学の正答率が高い**。

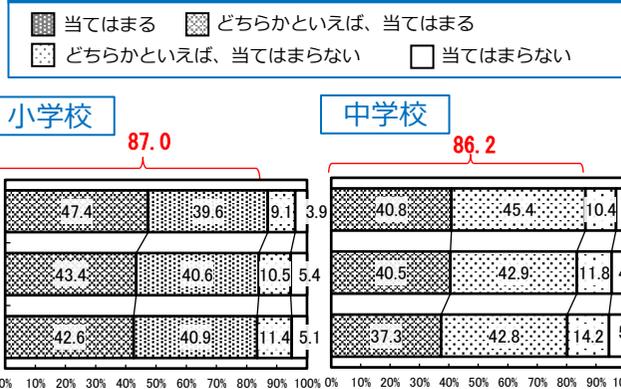
### SES別に見た「理解する」「説明する」の取組状況に応じた数学の正答率



## ウェルビーイング

- ◆ 「自分には、よいところがあると思う」と回答した児童生徒は85%以上で、微増。

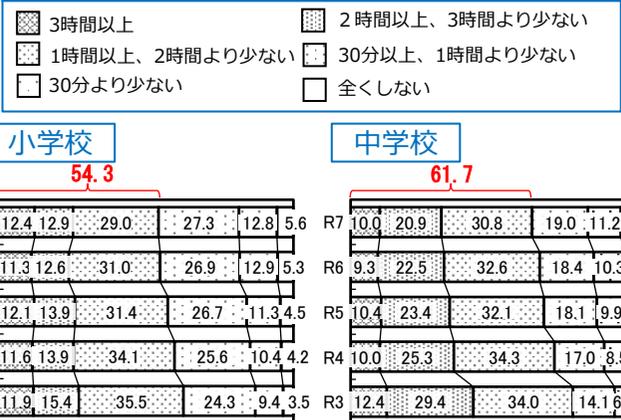
### 自分には、よいところがあると思う



## 学校外での過ごし方

- ◆ 学校の授業時間以外の勉強時間は、小・中学生とも令和3年度以降、平日、休日いずれも減少傾向。

### 平日の勉強時間（学習塾で勉強している時間等を含む）



## 1 学習指導要領の着実な実施・改訂に向けた検討

- **主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善**
  - 学習指導要領の趣旨・内容の周知・徹底のため、全国の都道府県等教育委員会の指導主事を対象とした協議会を実施。
  - 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けた全国の授業づくりの好事例の収集・分析を行い、サポートマガジン「みるみる」として公表。引き続き、事例の普及に取り組む。
- **指導改善に資する情報提供等（国立教育政策研究所）**
  - 報告書（授業アイデア例を含む）を作成し、国立教育政策研究所のWebサイトに掲載（教育委員会や学校等で学習指導の改善・充実を図る際に活用）。
  - IRTに基づく結果の活用方法について発信。児童生徒の理解の状況に応じた指導について、報告書で解説。
  - 全国説明会（各教育委員会、教員養成大学等対象）を開催し、学習指導の改善・充実のポイントを解説（令和7年8月20日・21日オンライン開催）。
  - オンラインなども活用しながら、学力調査官等による教育委員会や学校への指導・助言を実施。
- **学習指導の充実**
  - 今回明らかになった課題の解決に資するデジタル技術の活用方法について発信を実施。
  - 算数・数学について、調査結果で明らかとなった課題を踏まえ、効果的な指導法の開発・普及を行うとともに、全国の教職員向けにオンラインセミナーを開催。
  - 小学生等に学校外での自身の興味・関心に沿った楽しく利用できる学習コンテンツについて周知（「たのしくまなび隊」など）
- **次期学習指導要領に向けた中央教育審議会における検討**
  - 経済的に困難な背景のある子供たちを含め、子供たち一人一人が必要な資質・能力を育成できるよう、各教科等の改善や柔軟な教育課程編成の在り方について、次期学習指導要領に向けた検討を行う。

## 2 GIGAスクール構想の更なる取組の推進

- **学校のICT環境整備の推進**
  - 更なる活用に向け、共同調達スキームの下での端末の着実な更新や、学校におけるネットワーク環境の改善等を推進。
- **学校のICT環境を活用した取組**
  - リーディングDXスクール事業における効果的な実践例の創出・モデル化。
  - 学校種別の授業動画など、切れ目のない研修コンテンツの提供。
  - GIGA StuDX推進チームによる研修の実施、自治体の課題に応じた支援の提案。
  - 学校DX戦略アドバイザーによる相談体制の構築、支援。

## 3 児童生徒の豊かな心をはぐくむ取組の推進

- ・ 道徳教育や特別活動、体験活動、生徒指導など学校教育活動全体を通じて児童生徒の豊かな心をはぐくむ取組を推進。
- ・ 読書の推進について、発達段階に応じた読書活動の先導的なモデル事業や、学校等における子供の読書活動を推進するための優れた取組の表彰を実施。

## 4 支援を必要とする児童生徒の支援策の充実

- ・ 実施後アンケートの回答結果を基に、不登校児童生徒、障害のある児童生徒、外国人児童生徒等の解答(回答)を全国レベルで集計し、支援の充実につなげる形で活用。
- ・ 1人1台端末を活用した児童生徒の悩みや不安の早期発見・支援を推進するとともに、ICTを活用した学習も含め、不登校児童生徒が行った学習の成果を成績に反映することができることを法令上明確化。

## 5 教師を取り巻く環境整備

- **指導体制の充実**
  - 中学校35人学級化（令和8年度から）や、小学校高学年及び中学年での教科担任制の拡充、中学校生徒指導担当教師の配置拡充、貧困など個々の学校が抱える課題への対応等、学校の指導・運営体制の充実。
  - 多様な専門性を有する質の高い教職員集団の形成を加速するため、教師人材の質の向上と入職経路の幅の観点から、教師の養成・採用・研修における必要な改革について、中央教育審議会の審議の中で検討。
- **子供と向き合う時間の確保**
  - 教師が教師でなければできない仕事に集中することができるよう、学校における働き方改革の更なる加速化や、教員業務支援員などの支援スタッフの配置充実。
  - コミュニティ・スクールを活用した働き方改革に係る取組の充実。
- **校務DXの推進**
  - 教職員の事務負担の軽減や効率的で柔軟な働き方の実現、データ利活用・データ連携等を通じた教育活動の高度化に向けて、次世代校務DX環境の整備への支援を加速。

## 6 調査結果の活用、次回以降の調査の検討

- **調査の高度化に向けた検討**
  - CBTを着実に導入し、調査の高度化、きめ細かな分析・返却を実現。
  - 結果返却の更なる早期化を検討。
- **集計結果データの貸与**
  - 大学等の研究者による多様な学術研究の分析等を促進するため、個票データ等の貸与を実施。

文部科学省における全国学力・学習状況調査結果の活用に関する令和7年度の取組

別添1のP.7「取組一覧」のうち、調査結果の活用に関する文部科学省及び国立教育政策研究所の取組の詳細をお知らせします。

### 別添1 P.7「1 学習指導要領の着実な実施・改訂に向けた検討」関係

#### 1. 調査結果の分析・検証や教育指導等の改善の取組に資する資料の作成・配付等

##### (1) 調査問題に関する解説資料の作成・配信

調査問題の出題の趣旨や学習指導に当たっての参考事項などを示した「令和7年度全国学力・学習状況調査 解説資料」（令和7年4月国立教育政策研究所教育課程研究センター）を作成し、国立教育政策研究所のウェブサイトに掲載するとともに、各教育委員会、学校等にデータで配信。

（参考）

URL：<https://www.nier.go.jp/25chousa/25chousa.htm>

##### (2) 教科調査の結果に関する報告書の作成・公表

教科調査について、設問ごとに全国的な分析結果や指導改善のポイント等を示した「令和7年度全国学力・学習状況調査 報告書【速報版】」（令和7年7月文部科学省・国立教育政策研究所）等を作成し、公表。また、授業の改善・充実に資するよう、「授業アイディア例」を掲載し、調査結果の課題分析と課題の解決を図る事例を一体的に示している。報告書【確定版】については、本年8月18日以降に国立教育政策研究所のウェブサイトに掲載する予定。

なお、本調査の結果の分析にあたっては、平均正答数、平均正答率、平均IRTスコアのみならず、中央値、標準偏差等の数値や分布の状況を表すグラフの形状など他の情報と合わせて総合的に結果を分析、評価することが必要である。また、個々の問題や領域等に注目して学習指導上の課題を把握・分析し、児童生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることも重要である。

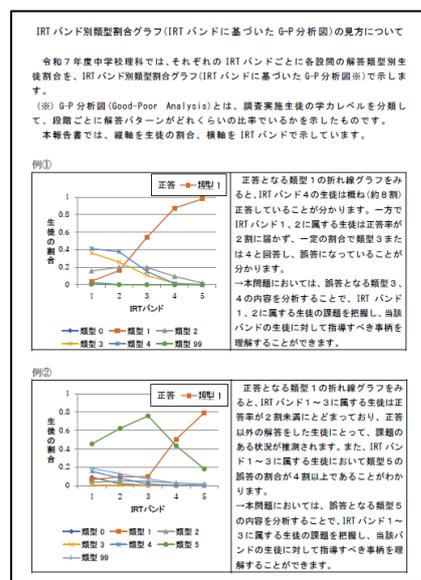
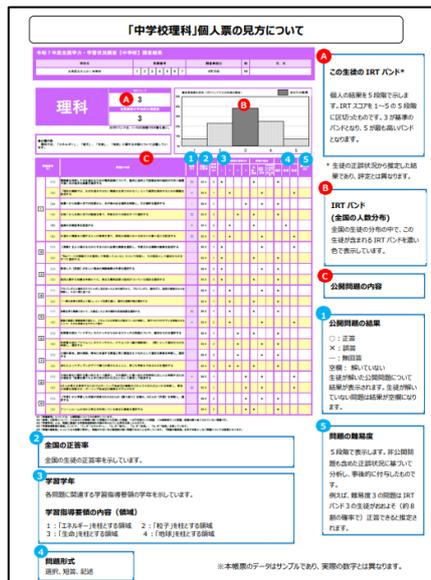
（参考）

URL：<https://www.nier.go.jp/25chousakekkahoukoku/index.html>

##### (3) IRTに基づく結果及びその活用（中学校理科）

教科調査のうち中学校理科については、これまでの正答数・率に代えて、IRTスコア・バンドで結果を表示・返却している。IRTに基づく調査結果を今後の学習指導への活用を進めるために、IRTに基づく結果提供に関するリーフレットや動画等を作成して公表しているので、併せて御活用いただきたい。

また、教科調査の「令和7年度全国学力・学習状況調査 報告書【速報版】」（令和7年7月文部科学省・国立教育政策研究所）等において、IRTバンドに応じた解答状況の特徴や指導改善のポイント等を示している。各種資料等も積極的に活用しながら、各教育委員会・各学校において、調査結果の分析・検証や、新しい形で提供される調査結果の周知等を行うことが重要である。



(参考)

URL: [https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/gakuryoku-chousa/zenkoku/mext\\_03311.html](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/gakuryoku-chousa/zenkoku/mext_03311.html)

#### (4) 質問調査の結果に関する報告書の作成・公表

質問調査について、質問項目ごとに全国的な経年変化や、教科の平均正答率等とのクロス集計とその分析結果を示した「令和7年度全国学力・学習状況調査 報告書【質問調査】【速報版】」（令和7年7月文部科学省・国立教育政策研究所）等を作成し、公表。報告書【確定版】については、本年8月18日以降に国立教育政策研究所のウェブサイトに掲載する予定。

ただし、クロス集計については、相関関係が見られるかを分析したものであり、因果関係を示したものではないことや、質問調査の回答が特定の選択肢に偏っている項目の場合は正答率との相関関係が表れにくいことなどに留意する等、データから読み取れる内容と実際の状況とをよく照らし合わせて分析することが重要である。

(参考)

URL: <https://www.nier.go.jp/25chousakekkahoukoku/report/question.html>

## 2. 本調査の結果を踏まえた学習指導の改善・充実に向けた説明会の開催

本調査の結果を踏まえた学習指導の改善・充実を図る際の参考となるよう、「令和7年度全国学力・学習状況調査の調査結果を踏まえた学習指導の改善・充実に向けた説明会」を、本年8月20～21日にオンラインで開催し、教科調査の問題の趣旨、結果概要、指導改善のポイント等や、質問調査の結果概要について説明する。また、都道府県教育委員会等の要請に応じ、教育委員会、学校等に対してオンラインなども活用し、国立教育政策研究所の学力調査官等による指導・助言を行う。

## 3. 国立教育政策研究所が行う教育課程実践検証協力校事業における検証

国立教育政策研究所が行う教育課程実践検証協力校において、児童生徒が学習に取り組む様子の観察等を通じて、学習指導上の様々な実践を客観的に検証することや全国的な学力調査等と学習の実現状況を相補的に捉えることにより、教育課程の基準の改善充実等に必要となる情報の収集等を行う。

## 令和7年度全国学力・学習状況調査に関する実施要領（抜粋）

（令和6年12月23日 文部科学事務次官決定）

### 1. 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 7. 調査結果の取扱い

文部科学省は、以下のとおり、調査結果を示し、公表するとともに、各教育委員会及び学校に対して、調査結果等を提供する。

なお、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第21条第17号の規定により、調査の実施、調査結果の活用及び公表等を含め、公立学校に係る調査は教育委員会の職務権限である。そのため、教育委員会は、調査結果の活用及び公表等の取扱いについて、主体性と責任を持って当たることとする。

#### （1）調査結果の示し方

文部科学省は、小学校調査及び中学校調査のそれぞれの結果として、以下の事項等を示す。

ア PBTで実施する教科に関する調査の結果

（ア）各教科に係る問題の全体の平均正答数、平均正答率、中央値、標準偏差等

（イ）以下をそれぞれ単位とした各教科の平均正答数等の分布等が分かるグラフ

- ① 都道府県教育委員会
- ② 都道府県教育委員会（指定都市教育委員会を除く。）
- ③ 指定都市教育委員会
- ④ 教育委員会
- ⑤ 学校
- ⑥ 児童生徒

（ウ）各教科の設問ごとの正答率等

（エ）各教科の設問ごとの解答類型別児童生徒数の割合

イ CBTで実施する教科に関する調査の結果

（ア）各教科に係る問題の全体のIRTスコア等

（イ）以下をそれぞれ単位とした各教科のIRTスコア等の分布等が分かるグラフ

- ① 都道府県教育委員会
- ② 都道府県教育委員会（指定都市教育委員会を除く。）

③ 指定都市教育委員会

④ 教育委員会

⑤ 学校

⑥ 児童生徒

(ウ) 各教科の公開問題の設問ごとの正答率等

(エ) 各教科の公開問題の設問ごとの解答類型別生徒数の割合

ウ 児童生徒質問調査及び学校質問調査の結果

(ア) 児童生徒質問調査及び学校質問調査の回答状況

(イ) 児童生徒質問調査及び学校質問調査の回答状況と教科に関する調査の正答率、IRT  
スコア等との相関関係の分析

エ その他調査の目的の達成に資する分析

## (2) 文部科学省による調査結果の公表

文部科学省は、調査の目的を踏まえ、以下の事項等について調査結果を公表する。文部科学省が公表する調査結果については、公表後速やかに、文部科学省ホームページに掲載する。

ア 以下の(ア)から(オ)までの区分に応じ、上記(1)アからウまでで示した結果。  
ただし、(イ)から(エ)までの区分で公表する内容については、別に定める。

(ア) 国全体(国・公・私立学校全体の状況又は国・公・私立学校別の状況)

(イ) 都道府県ごと(都道府県教育委員会及び市町村教育委員会が設置管理する学校全体の状況)

(ウ) 都道府県(指定都市を除く。)ごと(都道府県教育委員会及び市町村教育委員会  
が設置管理する学校全体の状況)

(エ) 指定都市ごと(指定都市教育委員会が設置管理する学校全体の状況)

(オ) 地域の規模等に応じたまとまりごと(「大都市」(指定都市及び東京23区)、  
「中核市」、「その他の市」及び「町村」並びに「へき地」の五つの区分における  
市町村教育委員会が設置管理する学校全体の状況)

イ 教科に関する調査の解答状況及び質問調査の回答状況(一般に公開された場合に、  
個人、学校、設置管理者等が特定されることのないよう、データの匿名化処理(必要  
に応じて疑似データ化等の処理を含む。)を行ったもの)

ウ その他調査の目的の達成に資する分析